

第38回「大阪府青少年読書感想画コンクール」

優秀作品

指定読書
小学校 低学年の部

「糸がつなぐみんなの心」

香里又ヴェル学院小学校
3年 岡 奏帆（おか かなほ）



本をしっかりと読んでいて、お客さんの気持ちに沿った
平井さんと同じように、優しい気持ちを絵にこめている
ように感じました。

黒アゲハの羽は色を考えて選び、効果的なデザインで、
ビロードの様に仕上がっていて、とても素敵です。

指定読書

小学校 低学年の部

「どぼん！みんなでブクブク」

堺市立東深井小学校

2年 木村 葉菜(きむら かな)



大きなクマが川に落ちた体勢が印象的です。広げた両手足、大きく開いた目や口から、水の中に落ちて、驚いたこともさることながら、次々に仲間と出会っていくことも楽しんでいる様子が伝わりました。口から出てくる泡もそれぞれの動物の大きさに合わせた大きさを、上にいくほど広がっていくさまなど、細部まで工夫が見られました。

自由読書

小学校 低学年の部

「ふうせんクジラと花火たいかいへいったよ」

堺市久世小学校

1年 山本 蓮華(やまもと れんか)



海の中にいるはずのクジラが風船を食べたらどうなるかということと、今年やりたくてもできなかった自分の思いをしっかりと考えて表現できています。

たくさんのお友だちが一人ひとり違っていて、クジラも友だちも花火もその場を楽しんでいる様な雰囲気になりましたね。

自由読書

小学校 低学年の部

「じろべえ かきいっぱいやな」

堺市東深井小学校

1年 冷水 宏圭(ひやみずひろき)



大きな鼻や大きな耳が、柿木に負けないくらい個性的で、
見ていてうきうきするような楽しい絵です。

周りの人たち(絵の中も実際も)や、主人公(作者)を見て楽しめ、
元気をもらえる作品でした。

「親友との最高の誕生パーティー」

和泉市北松尾小学校

[illegible]

—この絵の魅力のひとつが、安定した構図で、色彩の明暗やものの大きさを効果的に使い分け、楽しさが心に響いてくる作品になっていました。

指定読書

小学校高学年の部

「木の妖精と太陽の光」

関西創価小学校

4年 平野 美由紀(ひらの みゆき)



研究者の著した専門的な説明文を読んで、この作品のようなファンタジックな表現に置き換えられていることに感嘆しました。メリハリの効いた構図の中に、細かく描き込まれた人物のや道具に独特の味わいがあり、水彩絵の具と黒いペンの線を使った表現とあいまって見る人をひきつける愉快な作品でした。

自由読書

小学校高学年の部

「森林」

大阪信愛学院小学校

5年 神田 のい(かんだ のい)



日頃から、文学に親しみ、作品を読み込み、印象的な場面を構築する力を持った作品なのだと思います。

動物、植物、人物それぞれの表現が魅力的で美しく、この絵に触れた誰もがこのお話を読みたいと誘われるようで、本への深い愛情を感じさせます。

大正時代をイメージして、描き加えたというステンドグラスがとても効果的でした。

自由読書

小学校 高学年の部

「ジャベール、光へ届け！」

追手門学院しょうがっこう

4年 中西 凌輔（なかにし りょうすけ）



「ロミゼラブル」という文学作品を4年生ながらに読み込み、ジャベールの目線で感想を抱いたことにも敬服しましたが、作品に描き込まれたエピソードがぶれずに、その視点でまとめられていることにも驚きました。

豊かな色彩があふれ出す画面の中央の強い「光」から、放射状に広がる構成が秀逸で、登場するキャラクターは、どれも独特の魅力をたたえ、多くの人びとがひきつけられる印象的な作品でした。

指定読書

中学校の部

「ウチナーの彩りのために」

東大阪市立石切中学校

3年 加藤 唯奈(かとう ゆいな)



実在の3人の人物の物語を3匹の龍になぞらえて描いているのが印象的です。

物語の舞台となる沖縄の自然や文化を、マーブリングの表現や紅型の様式を取り入れた表現で、自分の思いに重ねています。

指定読書

中学校の部

「スタート」

河内長野市立東中学校

1年 田中 志歩(たなか しほ)



まっすぐに続く道や人物をやわらかなタッチと温かみのある色調で
ていねいに描いています。

透視図法による奥行きのある構図は、今、まさにスタートを切ろう
とする登場人物やまわりの人々の姿をきわ立たせ、**「出会い」**が人間
の可能性を広げることが暗示されます。

自由読書

中学校の部

「アネモネ」

堺市立綾南中学校

2年 矢野 愛佳(やの あいか)



絵の全体がライトグレイッシュトーンでまとめられ、美しい世界感をていねいに描いています。

細部には、猫にとけこむように描かれた登場人物や机から飛び出す手等のイリュージョンの要素が、この作品を見る人を楽しませてくれます。

子どもたちの成長の時間の流れが、キャンパスの向こうの光につながるのが印象的です。

自由読書

中学校の部

「人間」

堺市立綾南中学校

2年 中岡 昭（なかおか あきら）



人間の本質を追求し、人間の醜さを独特な雰囲気の色調で表現しています。

物語から受ける印象を1枚の絵にまとめ上げた表現力と羅生門復元模型等の資料収集の努力を高く評価します。

指定読書
高校の部

「ギヤースと犠牲者へ」

大阪商業大学高等学校
2年 市成 巧（いちなり たく）



この作品の作者は、戦争の話をもるい色彩で表現している。ギヤースの死を綺麗な色彩で癒したかった作者の思いがよく表れています。

鮮やかな周りの色彩と、中心の黒い線での表現の組み合わせが対照的で、効果的によく考えられています。

みんなに未来を見てほしいという作者の気持ちが抽象的な作品の中によく表現されています。

自由読書
高校の部

「生きる」

大阪府立堺西高等学校
1年 田畑 芹奈(たばた せりな)



画面上部に大きく描かれた槍から落ちる血が、やがて涙や汗に変わり、ナユグの水になっていく様子を、大胆な構成でとても印象的に表現できています。

一枚の絵の中にたくさんの場面が入っており、物語の壮大さを感じさせる絵に仕上がっています。

一つ一つのモチーフに意味を込めてあり、絵を見た人が物語を読みたい気持ちになります。

全体を通じて

【小学校低学年】

多くの作品が、ストーリーから一つの場面を切り取り、発想を膨らませて色彩豊かに描かれていました。

また、作品のイラストから受けたイメージに、自分で感じたオリジナリティを加え、ていねいに作品を仕上げていました。

全体的には、作品に ていねいに時間をかけて取り組む作品が多く、画材もクレパスや水彩、色鉛筆など多様で、技法やモダンテクニックを効果的に用いて、子どもらしく独創的に表現されていました。

【小学校高学年】

著者の思いを読み取り、さまざまな技法やモダンテクニックを効果的に用いて、緻密に表現しようとする子どものこだわりや技術の高さを感じました。

全体的には、一つ一つの作品に丁寧に取り組む作品が多かったですが、自分なりの技法をいかした工夫もみられました。

自由図書では、作品のもつイメージからだけではなく、読みを深める中で感じた部分にオリジナリティを加え、ていねいに仕上げる作品が増えてきています。

【中学校】

今年度は力作が多数出品され、選出に時間がかかりました。指定図書も応募に対して作品数が増えたのは良い傾向です。

今後も本を深く読み、独創的な作品が増えることを期待します。

【高等学校】

高校生になると、表現力は高くなり、生徒それぞれの表現も個性的になります。

出品された作品は、いずれも本を読んで感じたものを優れた描写力や構成力で表していて、感銘を受けました。

そんな中で、全体的には絵を描く機会が少なくなっているせいか、出品作品が少ないのが気になります。

もっと多数の作品が出品されることを期待します。

なお、カメラで撮した作品は、実際の絵とは色合いなどが異なるので、ご了承ください。